

自治体SDGs推進評価・調査検討会委員のコメント例(令和3年度自治体SDGsモデル事業)

提案自治体	コメント例
<p>北海道 上士幌町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題と地域資源を徹底的に洗い出して検討を重ねた大変現実的でクリエイティブな提案である。成功すれば全国の小規模自治体の先進的なモデルになると思料する。 ・デマンド型の貨客混載型の自動運転バスの活用等、先端技術と地域特性を踏まえた、持続的な取組など、今後他地域へのモデルとなる取組である。 ・再生可能エネルギーの地産地消を進めることや、EV・DX 等の新機軸に積極的に挑戦することは高く評価できる。 ・高齢者を含む受益者負担の交通、エネルギー、DX の取組を意欲的に進めており、官民連携の持続可能な地域サービスの先導的なモデルの構築を期待する。 ・モデル事業ではステークホルダーが有効に連携する可能性も高く、期待できる。 ・三側面の好循環が期待できる。 ・再生可能エネルギー、スマートシステムに焦点が当たっているが、広域連携等の視点も必要と思料する。 ・関係人口の創出・拡大方法については具体的な検討を期待する。
<p>千葉県 市原市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画とモデル事業の関係性が、特によく考えられた提案である。特に、経済、社会、環境のそれぞれに位置づけが地域条件を踏まえて的確である。 ・循環経済がポストコロナのグリーンリカバリーの中心となる柱になることの議論がヨーロッパでも具体的に始まっている。市原市での産業と都市が連携する「都市産業共生」の取組が日本のSDGs型グリーン開発の先導的な取組となることを大いに期待する。 ・サーキュラーエコノミーに向け石油化学産業が温暖化対策で動き出すと効果が大きく、今後の産業転換に向けた動きと重なるため、具体的な取組が期待される。小型家電で実施されたような静脈物流の整備など、地域の社会基盤、循環基盤を整備することを期待する。 ・ポリスチレンのリサイクル性の優位性の検証は、ゴール 14 への貢献も期待できる。 ・海洋プラスチックごみ削減の計画において、ケミカルリサイクルの実証実験の中での市民の役割をより明らかにすることが望まれる。 ・まちづくりに関する取組について、より具体的な検討が望まれる。 ・カーボンニュートラルを目標設定に反映することを期待する。 ・「三側面をつなぐ統合的取組」では、社会の取組が弱く見えるため、その点の拡充を期待する。 ・社会と教育を連携させる側面について、強化が望まれる。 ・流通、消費のネットワークについて周辺地域との連携を含む検討を期待する。

提案自治体	コメント例
東京都 墨田区	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり墨田区の地域資源を最大限に活用し、環境、社会の視点に立った具体的な事業提案がなされ、その循環が新産業を生み出すというシステムが構築され、墨田区から新産業分野を創造可能と期待できる。イノベーション専門職大学の誘致により、ものづくりだけでなく、サービス産業、IT 人材の育成も十分に期待でき、製造業とIT の融合となり、SDGs未来都市に新たなビジョンを持ち込んだ素晴らしい提案となっている。 ・モデル事業が、区の資源の活用や企業の連携、エリア別の位置づけを含めて詳細で具体的な計画となっている点が高く評価できる。 ・区内全域が保有するものづくりや創業インキュベーションの資源を活かし、今後 10 年の新創業を育むことが期待される。 ・人材育成の社会装置、健康を結び付けた二側面での成果が期待できる。 ・企業の交流促進、スタートアップ事業、プロトタイプの実証を推進するために、イノベーション専門職大学やスミダラボツリーの運営体制の具体的な説明を期待する。区民が参画できるインターフェイスの工夫について具体的に明示することが望まれる。スタートアップ企業が生み出す付加価値向上が地域経済、地域の環境改善につながることはタイムラグが発生するため、墨田区の継続的な支援のもとに、民間企業が計画するイノベーションが具体化されることを期待する。
新潟県 妙高市	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルに関する取組を行っている点が評価できる。 ・将来ビジョンに関する記述で KPI がバランスよく設定されている点が評価できる。 ・SDGsの取組として、地域性に合致した具体性ある事業に取り組んでいる点が評価できる。 ・積極的に情報発信を行っており、普及に向けた努力をしている点が評価できる。 ・エコモビリティ、カーシェアリング、ワーケーションシステムについて先進的な事業が着実に推進されており、福祉・健康等幅広いSDGsの目標との連携についても検討が進められていることは高く評価できる。異なる分野間の活性化につなげる統合的なSDGsのガバナンスにつなげることを期待する。 ・「生命地域」のコンセプト設定や斬新なモデル事業は高く評価される。 ・妙高の豊かな自然と調和したSDGsの視点に立った観光の推進は魅力的である。エコモビリティを多方面のゼロカーボンに展開することが期待される。 ・ツーリズムについては、コロナ禍ではなかなか効果が表れにくいと思われるが、長期的な視野で取り組むことを期待する。 ・SDGsの取組を通して、魅力的な地方都市への転換を推進することが期待される。 ・モデル事業は時宜を得ていて興味深いですが、全体計画のより野心的な取組が望まれる。

提案自治体	コメント例
岐阜県 岐阜市	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業が単なる計画に留まらずプロセスを含めて、隅々まで考え抜かれた提案である。 ・モデル事業としては、豊かな自然(山水)と新庁舎(つかさのまち)、メディアコスモス(都市の魅力)を融合化し、新たなヘルスツーリズムを構築し、観光産業を誘発する提案となっている。この提案は、多くの市民を巻き込んだ仕掛けが何重にも構築され、実現性が高い。環境から社会への流れをはじめとして、経済の拡大を図る効果的な提案となっている。 ・都市型クアオルトという新たな形態により、市民向けと外部からの観光客向けの双方を目指しているのは興味深い。 ・経済に関してはつかさのまちの図書館、駅前の再開発などの中心市街地活性化を目指し、環境・社会に関しては長良川のかわまちづくりで文化と観光をつなぎ旅館再生や観光の活性化を図るなど、地域資源を有効に生かし三側面の循環が構築できている魅力的な提案である。 ・自律的好循環を可能にするため、産官学民プラットフォームを工夫して運用することが期待される。 ・健康づくり、ヘルスツーリズム、まちづくりリノベーション、ライドシェア、事業者登録制度など具体的な取組がわかりやすく記述されているが、地域コンソーシアムの形成の核になる登録制度はどの程度実現されるか明示されることが望まれる。
岐阜県 美濃加茂市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏「ローカルSDGsみのかも」を掲げる具体的で魅力的な事業提案であり、SDGs未来都市のトップリーダーとして期待できる。 ・21世紀の地方自治体の方向性を示す提案であり、実現を期待する。 ・いろいろな要素の組み合わせが常に意識されており、「ソーシャルビジネス地域事業体」をはじめとする仕組み作りがよく考えられた提案である。 ・エネルギー、観光、交通、里山といったソーシャルビジネスの要素は具体的に考え込まれている。 ・地域での資金循環の具体的な事業の取組が描かれていることが評価できる。カーボンニュートラルの取組についてバイオマス発電、ソーラーシェアリング、スマートアグリとともに Walkable 都市などを総合化するビジョンの検討を期待する。 ・具体的な担い手の芽があることは理解できたが、これらを緩やかに束ねていく枠組みとしてのソーシャルビジネス地域事業体の構築が期待される。
京都府 京都市	<ul style="list-style-type: none"> ・「超SDGs×レジリエンス」の考え方はモデル事業に相応しい先進性があり、高く評価できる。 ・京都議定書誕生の地・京都の使命をよく理解しており、全体的にバランスの良い提案である。 ・世界的な観光地であることから、フランスのモンサンミッシェルのように、ホテルでのリサイクルやアニメティグッズの削減、寺社仏閣を巻き込んだリサイクル、タクシーのEV化や温暖化対策等についても具体的な取組が期待される。 ・テラスによる社会転換のショーケースを構築することの意義は大きいですが、事業化についてはより具体的な検討が望まれる。社会面や環境面で、文化＝生活スタイルに焦点が当たると、京都らしさが一層出るものと思料する。

提案自治体	コメント例
<p>愛媛県 西条市</p>	<p>・モデル事業の「ポイント」と「SDGsing メーター」の仕組みがプロセスまで含めて設計されており、実現可能性が高い。他方、ポイント制度を媒介とした環境面、産業面の連携を経済面での革新にどのように活かしていくのか(例えば、人材獲得能力向上にどう活かすのか)が重要であると思料する。</p> <p>・水、森、人材と西条市の地域資源を活用して、三側面の好循環を作り出そうとした積極的な提案である。企業連携や事前準備も整い、事業実践に期待ができる。</p> <p>・興味深い取組ではあるが、メーターを誰が開発するかについて具体的な検討が必要であると思料する。</p> <p>・地域ポイントの活用、活動人口のまちづくりなど特性を活かした検討がされており、評価できる。素材生産や地域交通の企業、農業生産者の活動を支援するポイント制度の活用、メーター制度の活用について、例えばゼロカーボンプロダクトチェーンや地域プレミアムなどの検討はポイントと連動することを想定しているのか、明示することが望まれる。</p> <p>・「ポイント制度」と「SDGsing メーター」の仕組みを通じて全ての活動を連動し、全ての市民の参加を促すとともに自律的好循環を実現していこうとする取組は、「推進市民章」や「企業・団体認証制度」とも連動させる計画でありSDGsを達成するための統合的な枠組みとして大変よく構築されており、高く評価できる。そのうえで、今後以下の2点についてさらに検討し、より大きな成果を上げられるよう期待する。</p> <p>①今後このシステムの実効性をさらに高めていく上で重要である維持管理及び評価とフォローアップについては、どのように組み込まれており、また今後どのように進めていくのか明示されること。</p> <p>②市全体としてのSDGs達成度を検証する一環として、詳細な目標貢献度の統計的可視化は大変興味深く、またこうした取組をさらに発展させることにより、SDGsのローカライゼーションを評価する手法の開発にも資すると考えられることから、今後こうした視点を念頭に企画・実施を進めていくこと。</p> <p>・「ポイント制度」の活用を通じて、若者と高齢者とが融合して持続可能な地域づくりに参画していく取組は、環境教育の観点からも大いに意義があり、まさにSDGsの目指す統合的な取組を地域で実現していこうとしている姿勢を評価している。今後、例えば「SDGs推進市民章」の表彰を受けた若者たちが、環境教育の指導者としてさらに次の世代の後継者を育てていくような長期的な構想の下に展開されると一層厚みのある取組となると思料する。</p> <p>・将来的に、蓄積したポイントを寄付する仕組みを検討していくことになっているが、寄付されたポイントは、どのように活用されていくのか。またこうした行動(寄付)による人々の行動変容について評価することは容易ではないと思われるが、今後どのような手法開発を念頭に置いているのか。いずれにしてもこれらのシステムを通じて入手できるデータを解析することにより、達成度評価に繋げていくことは極めて重要である。</p>

提案自治体	コメント例
<p>熊本県 山都町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有機 JAS 認証事業者数日本一の町として土壤に炭素貯蓄機能を最大限生かすことは非常に有意義な取組である。エコライフ支援事業(太陽光システム、太陽熱利用システム、薪ストーブ、生ごみ処理機助成などの事業)も効果的である。 ・高付加価値型農業の方向性の一つとして期待される有機 JAS 認証を担い手育成と共に推進する取組であり、まさにモデル事業として今後幅広い自治体が学ぶべき事例として評価する。さらに担い手育成が、後継者育成に留まらず、体験型農業等を通じた関係人口の増加としての要素を持つ事も興味深い。 ・有機農業を軸とした経済・社会の好循環も魅力的な提案であり、山都経営塾は興味深い。 ・統合的取組の実効性に向けた検討を期待する。 ・有機農業を積極的に進めることは期待されるが、山都町ならではの価値の創出や多様な主体、交流人口が参画する仕組みについて、具体的にそれが経済循環にどのようなつながるかを含めて明示することが望まれる。また、職のブランド化と有機農業の結びつきを明確化することが望まれる。 ・有機農業の考えを、単なる「農法」ではなく、地域における暮らし方、稼ぎ方、自然のあり方の理念にまで高めた提案であり、特にSDGs的なものと言える。ただし、統合的取組については、まだ具体化されておらず、実現可能なかたちへの再検討が望まれる。

提案自治体	コメント例
<p>沖縄県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来ビジョンやSDGsの取組において、バランスよく KPI を設定し、具体性を持って推進する姿勢が評価できる。 ・モデル事業は地域課題を的確にとらえており、全体計画の質も高く、三側面の相乗効果の構想もよく検討されており、評価できる。 ・島嶼地域向けの再生可能エネルギー事業、子供の貧困率が高い中でのネットワーク事業等、地域特性への対応が検討されている点が評価できる。 ・沖縄の子供の貧困は大きな課題であり、課題を直視し動き出す姿勢は評価できる。 ・食品ロス、エネルギー、最低賃金向上の取組も的確である。実効的な体制に関する検討が望まれる。 ・情報発信のために、多角的に施策を実施している点が評価できる。 ・モデル事業について、多角的な KPI を設定している点は評価できるが、少ない数を数えるタイプの KPI は不安定になりやすく、できれば避けた方が良いのではないかと思料する。 ・観光関連については、コロナ禍ではなかなか効果が表れにくいと思われるが、長期的な視野で取り組むことを期待する。 ・沖縄県は、離島を抱える島嶼地域として、地域に適した再生可能エネルギーの導入に積極的取り組んでおり、今後とも離島を有する他の自治体への先進的な取組事例として期待される。また 2050 年の脱炭素社会実現に向けて「沖縄県クリーンエネルギーイニシアティブ」を策定し積極的な施策を展開している点を評価する。そうした観点から、再生可能エネルギーの導入や温室効果ガス排出量削減に関する 2030 年目標について、さらに意欲的な目標設定を目指していくことが重要と思われるが、この点どのような将来展望を有しているのか明らかにされることを期待する。 ・経済価値を循環する具体的な仕組み、カーボンニュートラルへの取組について、沖縄ならではの具体的な取組を明示することが望まれる。 ・環境面では、再生エネルギーの導入に加えて生態系保護を優先的課題として掲げているが、実際の環境面での KPI としては、「生態系」に関するものが現時点では考慮されていない。生物多様性や海洋生態系保護の観点から、沖縄県は比較優位性の高い地域であることから、この観点からの KPI 設定について今後検討されることを期待する。 ・モデル事業の目標として、社会面では子供の貧困解消の取組に加え、女性力推進を掲げている点については、SDGs のゴール 5(ジェンダー平等の実現)に関する取組事例として今後とも注目していきたい。また KPI の設定に関しては、「女性の力向上応援事業」として「出産・育児を理由にした女性の割合」を低減していくことが提案されているが、さらに例えば「出産・育児後の職場への復帰の可能性を高めるプログラム」の開発についても視野に検討されることを期待する。